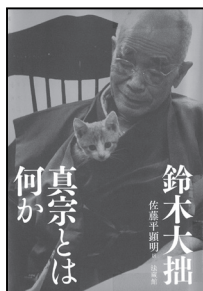


教化センターだより

No. 415

発行日 2021年1月1日
発行 真宗大谷派大阪教区
教化センター
TEL 06-6251-0745
FAX 06-4708-3278

◆ 御堂文庫 蔵書の紹介 ◆



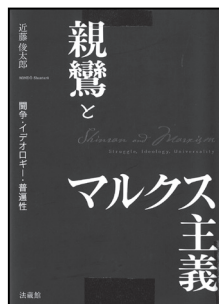
〈発行〉法蔵館

『真宗とは何か』

〔著者〕鈴木大拙 〔訳者〕佐藤平顕明

超個己の個の靈性的直覚において、「親鸞一人」は弥陀と一体であり、法然聖人とも一体です。「一切即一、一即一切」の超個、個我の意識を離れた無我の信境です。同書の中の大拙先生の「法然と親鸞を一人格にしてみても良いのだ」という破天荒とも見えるご提言は、内に深く秘められた大拙先生の同質の体得から湧出したものに違いありません。

（序文より引用）



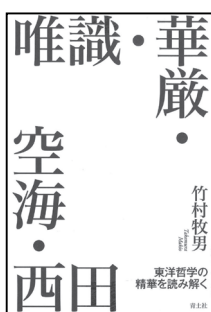
〈発行〉法蔵館

『親鸞とマルクス主義 闘争・イデオロギー・普遍性』

〔著者〕近藤俊太郎

初期水平運動・反宗教運動・転向・戦時教学・戦後仏教史学・反靖国運動一、近現代日本の諸局面で構築された数多くの親鸞論。なかでもマルクス主義と交差することで、親鸞論は実に多様な展開を見せていく。その変遷を手がかりに、「親鸞を語る」という営為が語り手にもたらした思想経験を問い、その語りをもたらした近代という時代の歴史的経験に迫る。

（帯より引用）



〈発行〉青土社

『唯識・華嚴・空海・西田 東洋哲学の精華を読み解く』

〔著者〕竹村牧男

この世界は、実態的存在などなく、あらゆるものが互いに関係し合って存在している。ではそこで自己とはいかなる存在で、どのようにあるべきなのか。唯識の事的世界観から華嚴の事実無礙法界へ、さらに空海の人人無礙の曼荼羅、そして西田の「個物の哲学」へ。東洋の大地にそびえたつ哲学の連峰を縦横に踏破し、その叡智の真髓を未来に向けて照らし出す壮大な書。

（帯より引用）

— 教化リーフレットの

「活用について」 —

4枚の「教化リーフレット」は、各寺院・教会において「寺報」や個別に複写しての配布、同朋会や聞法会での教材として活用いただければ幸いです。

— 2月のリーフレット —

リーフレット①

「掲示板のごとは……教化センター」

「ごちそうを

奢る自分が

驕ってる?」

リーフレット②

「今月のじゆんは……宮部 渡

『本師源空明仏教

憐愍善悪凡夫人』

リーフレット③

「もっもっ相談」……山雄 竜彦

『コロナ禍で

夫との喧嘩が増えて……』

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおこえ」

『アングリマール』の托鉢』

（敬称略）

じ まん
自慢

ごちそうを

おご
奢る自分が

おご
驕ってる？

友達に新しい玩具を自慢したり、高級外車に乗っていることを自慢したり、持っていない人に対して見栄を張るのは【自慢】という煩惱の仕業である。この煩惱に歯止めがきかない自慢好きの人は、友人からも距離を置かれてしまう。見栄を張り続けなければならぬ生き方は、とても疲れる。

さて、目上の者が後輩に食事などを御馳走することを「おごる」とい、漢字にすると「奢る」と書く。過度な贅沢をする、他人に御馳走する、という意味である。

一方ごちらの「驕る」は、他人を見下し、自分勝手な行動に出る驕慢を意味する。

「ごちそうを」奢る「だけならば良いのだが、そ

こに良い格好をしたい、自己を誇示したいなどという「驕る」自慢欲求がふくまれてはいないか。

好ましい「奢り」方。「」の会計は僭越ながら出させてもらうよ。頼りない私だがいつも顔を立てて力を貸してくれてありがとう。これからもよろしく頼むよ。日頃の感謝の気持ちとして、どうかこは一つ、私に奢らせてくれ。」

よろしくない「驕り」方。「お、グラス空いたな、酒を注いでやるよ。なに、いらない？ オシの酒が飲めないっていいのか？ 生意気なヤツだな、目上から振る舞いを受けたら、有難く受け取れってんだ。ようし、オシが社会人のなんたるかを教えてやる。」

(教化センター)

本師源空明仏教
憐愍善悪凡夫人

本師・源空は、仏教に明らかにして、善悪の凡夫人を憐愍せしむ。

親鸞聖人は、「面授の師・源空（以下、法然上人）は、仏教を特別な人のものではなく、分け隔てなく民衆のためのものとして説いてくださった、善人も悪人もともに救われる世界、そういう本当の仏教を明らかにしてください。」と讃嘆されています。

国は臨終の枕元に阿弥陀如来の来迎図をかけ、念仏し、幼き法然上人を呼び寄せこのように遺言されます。「敵人を怨むな、もし怨みを結べば、その怨みは世々に継いで、お互いを殺しあうことの終わりがなくなってしまうだろう。だから、怨親平等に出遇える世界を見出すように。どうか、人を恨まず、真の道を求め仏の弟子となってほしい。」この父の残した言葉、「怨親平等」は敵も味方も、善人悪人平等に救われる世界を見出す、という課題が法然上人をして仏道を歩ませるきっかけとなり、また、仏道を学ぶ上でのテーマとも

なつたのです。15歳から比叡山延暦寺に上り修業を始めます。父の遺志に応えるべく猛勉強され後に「智慧の法然房」と呼ばれるほどの名声を博しますが、いくら沢山の經典を深く学んでも抱えた課題を満足させるものには巡り合うことは出来ませんでした。そして紆余曲折を経て、43歳にして善導の『観経疏』（散善義）の言葉に出遇います。「一心に弥陀の名号を専念して、行住坐臥、時節の久近を問わず、念念に捨てざるをば、これを「正定の業」と名づく、彼の仏願に順ずるがゆえに。」

たものがそこにあつたのです。誰でも本願を信じ念仏すれば、必ず浄土に往生することができると、本願念仏によつてのみ、敵も味方も、善人悪人も、上下貴賤、男女、貧富、それらを分け隔てなく「俱会一処」の浄土に平等に救われる、それが阿弥陀仏の願われた願に順ずることだと。ここに初めて称名念仏という仏教実践への道が開けたのです。法然上人は比叡山を降り吉水で民衆と共に専修念仏（専ら念仏を修める）の教えを広めていかれます。そしてその教えは親鸞聖人へと受け継がれていくのです。（宮部 渡）

今までの、仏教の教義

理解を深め、道を究める方向では見いだせなかつた

『真宗聖典』

207頁

『真宗大谷派 勤行集』（赤本）

30頁

もしもし相談



コロナ禍で
夫との喧嘩が増えて…

問

コロナ禍で、夫が家で過ごす時間が

多くなり、そのためか今までさほど気にならなかった夫の行動にイライラするようになり、些細な事で喧嘩になります。自分が我慢すればとは思いますが、気がつけば喧嘩ばかり。どうしたら自分を落ち着かせることができるでしょうか。
(52歳・女性)

答

本当に様々なところで「コロナ禍」の影響が

出ていますね。私たちが現状を「コロナ禍（かわざわい）」と呼んで、窮屈に感じるのは、人との

距離を少しでも縮めたい思いが満たされないためではないでしょうか。「人間」とはよく言ったものです。人と人の間に生きていることを絶えず確認したいのが私のです。

ご多分に漏れず私たち夫婦も、一日の大半を一緒に過ごすようになってから何かと衝突します。「生涯を共に」と夫婦になったはずなのに、少し過ごす時間が増えただけでどことなくギスギスするのが私なのです。

こんな矛盾だらけの、まるで暗闇の中をあちこちにぶつかりながら進むような生き方を、お釈迦様は「無明^{むみやう}」と教えてくださいます。灯火無く進むべき方向を知らない存

在とも言えるでしょう。

自分の有り様、いわば自分の現在地を知って、初めて進むべき方向は見えてきます。仏法という灯火が照らすのは、他でもない私の足下なのです。ご縁は「コロナ禍」で

したが、仏法に照らされ、矛盾だらけの我が身可愛いご都合主義が、私そのものであったと見せつけられているのです。

さて、ご質問から、もう少し深い私自身の有り様も見えてきました。それは「自分が我慢すれば」という思いです。これは我慢できるといって「無明」が成せる思い上がりでしょう。仏法に照らされる自己中心の姿は、自分の思いで善悪という物

差しを作り、これで万物を測ることに他ありません。結局、自分は善人です。悪いと思ってもいけないのに心を鎮められるはずがありません。

言うまでも無く、夫婦は一人では成立しない、人間の間を生きる「人間」の一つの姿なのです。どこまでも関係性の上に私は存在するのでしょう。

やはり、一人で解決できることは何もありません。どうです、心ゆくまでご夫婦で話してみませんか。決して「話せばわかる」とは申しません。それでも、仏法は見捨てることなく私の無明を照らしてくださいますから。

(山雄 竜麿)



仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ (199)



参考仏典：『仏教説話大系 2』
 仏典や仏教童話などを参考・題材にして教化センターが創作したお話です。